

2019 5/14

No.2090

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



こどもの日の5日、「はいはい」のスピードを競う「赤ちゃんダービー」が藤沢市鶴沼東の秩父宮記念体育館で開かれた。子どもたちの奮闘ぶりに、会場からは拍手と歓声が送られた。



視点・点描	3
「伝えたい」に向き合って	
地域経済	4
試されるコミュニティの力 東京一極集中からの転換へ	
社会	8
注目されるスマートシティー 安全・快適な生活のために	
暮らし2019	10
転移性脊髄圧迫に注意を	
企業最前線	12
にぎわう無人搬送車市場 人手不足の救世主になるか	
政治双眼鏡（随時掲載）	14
「令和おじさん」の強み 「トップ目指さない」菅氏	
アジアの風	15
ドゥテルテ支持率79%は秩序への評価	

事務局だより

◇2019年5月特別講演会
5月29日(水)午後1時30分～3時
ホテル横浜キャメロットジャパン4階「フェアウィンドI」
講師は日本総合研究所副理事長の湯元健治さん
演題は「消費増税を乗り切る企業の成長戦略」
◇2019年6月定例講演会
6月14日(金)午後1時30分～3時
崎陽軒本店5階「マンダリン」
講師は気象予報士・防災士の平井信行さん
演題は「自然災害に備えよう～台風、豪雨、猛暑～」

【お知らせ】 神奈川政経懇話会ではホームページ (www.kanagawa-seikon.jp) に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局 ☎045 (226) 2121。
【おことわり】 NNAアジア経済レポートは休みました。

視点 点描



「伝えたい」に向き合って

昨年から読者投稿欄の担当になった。職場では新参者なので、まずは郵便物の開封、ファックスのチェック、メール投稿のプリントアウトを引き受けた。最初の「受け手」として、やってくるさまざまな投稿を読む。

理路整然、時にはユーモアを交えながら論を展開する「手練れ」もいれば、句読点もなく、誤字脱

字は当たり前、主語と述語のつながりもおぼつかない文もある。

規定は「500字程度」なのに400字詰め原稿用紙3枚にびっしり書いてくる人、新聞記事の引き写しで行数を埋める人、引用した記事の日付を間違える人、門外

漢には分からない専門用語を並べる人…。時には罵詈雑言だらけのヘイト文もあって、最初は頭を抱

えたが、これが今の社会のありようかと、思い直してみた。

これまで、記者として書く訓練を積んだ、それなりに洗練された文章ばかり読んでいたので、新鮮といえば実に新鮮だ。

皆とにかく、何かを伝えたくて文章を送ってくる。それだけは確かで、そのエネルギー、熱量は大変なものだ。

投稿規定の字数分まで文章を書けない人、字数分にしようとして同じ内容を繰り返す人、書いているうちに迷走してしまう人…。しゃくし定規に対応すれば「使えない」原稿だが、せっかく書いたのにもつたいない。

そこで3月に紙面をリニューアルして、100字以上ならOKの「短文」コーナーを新設した。ついでに担当者が日々の業務内容とともに投稿への要望や不満もつぶやく「係から」も設けた。書

き慣れない人向けにハードルを下げて、格好良くそれらしい言葉でいえば「双方向性」重視を打ち出した。

この試みはなんとか軌道に乗りつつある。特に「係から」には「楽しみにしている」「面白い」「読者のキヤッチボールになっただけうれしい」などの意見が寄せられ、「人間って褒められるとうれしいんだなあ」という、当たり前のことをしみじみ実感。

「伝える媒体」である新聞の作り手の一員として、情報を受け取る読者、そこからさらに打ち返してくれる投稿者を意識するようになった。

意見が届く。存在を認められる。その手応えを、多くの人と共有できる。新聞投稿欄の可能性をじっくり考えていきたい。

(神奈川新聞社編集委員)

青木 幸恵